

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590600088		
法人名	社会福祉法人 立縫会		
事業所名	グループホーム 静妙庵	ユニット名	静けき邸
所在地	宮崎県日向市美々津町4083番地		
自己評価作成日	平成27年8月15日	評価結果市町村受理日	平成27年11月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaikokansaku.jp/45/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kanitrue&amp;livevoCd=4590600088-00&amp;PrefCd=45&amp;VersionCd=022">http://www.kaikokansaku.jp/45/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kanitrue&amp;livevoCd=4590600088-00&amp;PrefCd=45&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成27年9月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

海や山に囲まれた静かな環境の中で、落ち着いたシニアライフステージを送っていただきながら、併設の特養やデイサービスを訪問して兄弟や知人とふれあったり、地域の行事に参加したり、地域の方をお招きして交流を楽しむことができます。敷地内の畑にいき、散歩や歩行訓練をしながら季節の食物を収穫して、食事を楽しめます。施設内でも歩行訓練をしながら1周回ることができ、隣の方との会話を楽しめたり、お互いの状態観察を行って声を掛け合っています。散髪は月1・2回外部からきていただき、施設内でカラーやパーマができ、利用者様の負担も軽減され、大変喜ばれています。敬老会や花火大会・納涼祭りでは、家族とともに食事や行事を楽しめたり、定期的に遠足や外出も行い、気分転換を楽しまれています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

その人らしい暮らしぶりを支援する理念を掲げ、全職員で利用者のことを第一に考え、利用者のためのケアに取り組んでいる。家族の自立歩行の希望や在宅での生活状況把握により、歩行訓練を取り入れ、車椅子利用の利用者が一人で夜間トイレでの排せつが可能になった事例もある。また、利用者が精神的に不安定な時は、何か理由があるはずだと、ゆっくり時間をかけ話を聞き、寄り添う支援をしている。職員は、利用者や家族のような関係を構築しており、個々に沿ったその人らしい生活の支援がなされている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	静けき邸	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「その人らしいシニアライフステージ」をもって日々過ごせるように、毎日ミーティング後に全員で読み上げ、理念の確認をし、個々の生活スタイルにあったサービスを提供している。	農作業で培った経験を生かし、体の自由がきかなくなっても土いじりができる工夫や季節に応じた保存食作り、また、趣味を取り入れ、その人らしく生活できる支援を実践する等、その理念が生かされている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な交流はできていないが、併設の特養やデイサービスにて知人や地域の方との面会をされたり、地域の行事に参加することで交流を図っている。	昨年、課題としてあげた項目の一つである。地域の方との交流の場として茶話会を催し、地域の方からも隣人との交流ができると好評を得ており、次期の開催も期待されている。ホームは地域の拠点となるよう努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方にむけて茶話会を開催し、認知症や施設の勉強会を行ったり、随時、施設見学を実施することで、認知症の方の生活や支援方法などを知っていただく機会となっている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、日々の活動の様子や利用者様の状態報告などを写真を使ってわかりやすく報告したり、サービスについての意見や助言などをいただき、サービスの向上に活かしている。	会議では、ホームの状況報告と共に意見や助言を受け、運営に反映している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当の方に運営推進会議に出席していただき、事業所の実情やサービスについてアドバイスをいただいたり、不明な点については電話やメールにて相談しながら、協力関係を築く努力をしている。	市担当者は、運営推進会議の参加や情報の提供等を積極的に行っている。また、ホームも必要に応じて気軽に相談できる関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修会に参加し、正しく理解している。現在、玄関施錠などの身体拘束なども行っていない。	身体拘束については、法人内で全職員に向けての勉強会を行っている。また、グループホーム協議会の勉強会にも参加している。ホームから中庭や外に自由に入出りできる生活を支援している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者と職員は、虐待防止関連法について、研修に参加することで正しく理解し、虐待の早期発見や虐待防止に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	静けき邸	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者と職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会をもち、今後も継続して勉強会を行い、熟知していく必要がある。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は家族にわかりやすく説明し、疑問や不安な点がないかを確認している。面会や電話などでも不明な点などがないかを確認し、質問しやすい雰囲気作りに努めている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族や外部の方へ施設での活動や取り組みがわかるように、定期的に「静妙庵便り」を発行し、回覧しやすい場所に掲示している。また、面会時や運営推進会議にて要望や意見をいただき、信頼関係を大切にしている。	運営推進会議に家族の参加があり、意見や要望を聴く機会となっている。また、来訪時もしやすい雰囲気作りに努めている。申し送りを確実に周知できるよう、確認サインの徹底を図っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の部署会議や全体会議、朝のミーティングなどで、職員の意見や提案を聞く機会を設けたり、通常業務中でも気づいたことを何でも言える雰囲気作りに努めている。	意見や要望が出しやすく、入浴時間、勤務時間等の変更など、意見が反映されている。また、GTS(注G=Good Job T=Thank's S=Smile)カードを発行し、代表者、全職員共にコミュニケーションが円滑に図れるよう取り組んでいる。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得の為の支援や面談を定期的に行い、職員の向上心を高め、職場環境や条件の整備に努めている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人としての全体会議や研修復命発表、プロジェクトチームによる勉強会や研修会を定期的で開催している。参加できなかった職員も議事録を確認して、把握することに努めている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国や県内のグループホーム研修会や認知症研修会に参加し、情報収集やサービスの質の向上に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	静けき邸	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新規入所時は、細かい声掛けや配慮を行い、安心して生活できるように努めている。また、本人の気持ちに寄り添い、話を傾聴し、これまでの生活に近い環境で生活できるように雰囲気作りを心がけている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	新規入所時に、家族の要望や不安に思われていることなどしっかり話をきいて、少しでも不安を解消できるような関係作りに配慮している。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様や家族の状態を把握し、要望をもとに必要としている支援について考え、対応できるよう他事業所に相談などを行っている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様のできることを支援しながら、一緒に家事や料理をしたり、ともに助けあいながら生活している。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的に面会にきていただいたり、受診や本人の訴え時には、協力していただいている。施設の行事にも参加をさせていただいて本人との関わりを大切にさせていただくよう支援している。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	併設のデイサービスや特養を訪問し、なじみの方との面会や家族に協力をいただき、いきつけの店や場所に行ったりしている。また、外出や受診の際に自宅に立ち寄るなどして、地域の方と会える機会を作っている。	その人らしい暮らしぶりを維持するために、在宅生活状況を的確に把握するよう努めている。また、趣味の物、買い物の好きな利用者、コーヒーの好きな利用者など、一人ひとりの生活を大切に支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	行事やリハビリ活動などに一緒に参加されている。ほぼ毎回全員の利用者様が参加できているが、参加をされない利用者の方にも他の利用者から呼びかけたり、声をかけられている。			

自己	外部	項目	自己評価	静けき邸	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方でも、家族に状況を確認したり、入院先に様子を伺ったりしている。再度、入所の希望があれば、相談や対応をしている。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の思いや要望を各担当者や邸責任者を中心に把握し、その思いに応えられるように話し合ったり、家族に相談し、できる限り対応できるように努力している。		手助けが必要だと、利用者同士で気づいた時には職員に報告がある。本人だけではなく、取り巻く環境からも本当の希望は何かを把握しようと努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の面接や入所時、日々の中で、これまでの暮らしのことや生活歴について利用者や家族に話を伺いながら、サービスの経過などの把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所前に収集した情報を入所までに全職員で把握したり、日々の関わりの中で気付いたことや本人・家族から得た情報をミーティングや会議の中で共有し、現状の把握に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回の会議やミーティングで、利用者の思いや状況、家族の希望を各担当者を中心に話し合い、意見を出し合い、個人に合わせた対応を行いながら、介護計画にも生かしている。		本人、家族の要望や意見を基に、ケース記録や業務日誌等を参考にして話し合い、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケース記録や業務日誌以外にも連絡ノートを使用し、気づきや本人の訴え、普段と様子が違うことなど、全職員が情報を共有できるようにしたり、朝のミーティングで報告し、介護計画の見直しに活かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて、有償のボランティアサービスを利用したり、訪問診療や訪問美容サービスなどを利用したり、職員が受診の付添や送迎など柔軟に対応している。			

自己	外部	項目	自己評価	静けき邸	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の美容師さんや病院、地域の商店とのつながりを大切にし、利用している。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は、かかりつけ医を受診することで継続的な医療を受けられるように支援している。受診時には、状態に応じ職員が付き添って報告したり、普段の様子をお知らせに記載し報告することで、かかりつけ医との連携をとっている。		家族の付き添いが基本となっている。利用者の日常の状態を記入した「お知らせ用紙」を利用し、適切な医療を受けられるよう支援している。必要に応じて、家族とともに職員も同行し、状態等を報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態の変化や異常に気付いたら、すぐに職場内の看護師や併設の看護師に報告、相談しながら対応し、健康管理に努めている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には情報提供表を提出したり、直接職員が病院へ行き、普段の様子や状態などを報告している。また、こまめに様子伺いの面会や状態把握を行い、本人の様子や退院のめどなどの情報を収集し、退院時には、カンファレンスにも参加して病院関係者との連携を図っている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りについては、行っていないので、重度化した場合や緊急時の対応について、入所の際や面会時に確認を行い、事業所でできることを説明している。		昨年、課題としてあげた項目の一つであり、重度化した場合や緊急時の対応について文書化している。随時、本人、家族と話し合い、確認し合い、方針を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は、事業所内や法人内での定期的な訓練に参加し、緊急時の対応に備えている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防署の協力を得て、法人内の合同避難訓練や防災避難訓練に参加し、避難場所や避難経路の把握を行っている。また、グループホームだけの避難訓練や防災機器の取り扱い訓練なども定期的に行っている。		併設施設と総合訓練をしている。ホームも避難誘導経路や通報装置の確認を行っている。連絡網の訓練も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	静けき邸	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格に合わせた声掛けや対応を行っており、概ねできている。		嫌がることは無理強いせず、また、男性職員の対応を嫌がる利用者には女性が対応するなど、一人ひとりの気持ちを大切に支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自ら訴えることができない方に対しても、本人が話しやすいような雰囲気や環境作りに努めている。また、自己決定ができるように、様々な選択ができるよう働きかけている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせ、その人らしく生活が送れるように支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみやおしゃれができるように自分で選んだ衣類を着用し、自分でできるところまでしていただいている。できない方に関しては、家族から聞いて、本人らしいおしゃれができるよう支援している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できる限りの範囲で食事の準備や片づけをしていただいている。できない方に関しては、味見をしていただいたり、メニューに協力していただいている。		食材を利用者に見せてから調理するようしており、利用者からいろいろなメニューの提案があり、とり入れている。職員も同じものを同じテーブルで食し、楽しい食卓となるよう努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量や水分量をチェックし、記録している。足りない部分に関しては、補食や嗜好品で対応し、栄養バランスなど、病院と連携しながら支援している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けや誘導にて口腔ケアが行えており、夜間は、入れ歯洗浄剤にて清潔に保っている。必要な時には、歯科往診にて口腔内洗浄や口腔ケアの仕方など、本人共々指導していただいている。			

自己	外部	項目	自己評価	静けき邸	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録にて排泄間隔やパターンを把握し、声掛けや誘導を行っている。本人の状態に合わせて誘導を行い、トイレでの排泄が行えるよう支援している。		ホームにオムツは置いていない。座位姿勢が可能であれば、トイレでの排せつも可能であると、自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	なるべく自然排便できるように水分補給や運動を促したり、オリゴ糖やサツマイモなどの飲食物で対応したり、個々の習慣や状態に応じた予防や対応ができています。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	2日に1回の入浴を基本としているが、毎日入浴を行っているので、当日の本人の状態や希望に合わせて入浴を行っている。無理強いをせず、時間をずらして声掛けを行ったり、更衣や清拭で対応するなど、個々にそった支援をしている。		入浴を強く拒む利用者を半年の月日をかけて、足浴、体の清拭、入浴へと変更しながら、くつろげるよう支援している。決して無理強いすることなく、入浴が楽しいものとなるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣や心身の状態に応じて、本人のペースで自由に休息されている。ゆっくり休めるように定期的な寝具の交換や日光消毒、静かな環境作りに配慮している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬内容が把握できるようにケース記録にはさんでいる。服薬内容が変更になった時には、ノートや受診聞き取りファイルにて周知しており、症状の変化など、ミーティング時に確認している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴やできることを活かし、家事や趣味などをしていただいたり、外出や買物などで気分転換を図っている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年に数回、遠方に遠足に出かけたり、本人の希望にそって外出支援を行い、家族にも協力を依頼している。		買い物や外食に出掛けたり、ホームの周辺の散歩を行っている。桜やコスモスの季節には花見に出掛けたり、公園に遠足に行くなど積極的に外出している。	

自己	外部	項目	自己評価	静けき邸	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人や家族の希望があれば本人がお金を所持したり、使えるように支援している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望時や家族から電話があった際に、本人と代わり話ができるように配慮したり、定期的にハガキを出したり、手紙がきたときにも返事ができるように支援している。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂ホールや廊下・中庭に季節に応じた花を飾ったり、共同で作業した作品や写真を掲示している。また、状況に応じて、好きな音楽を流したり、居心地よく過ごせるように配慮している。	共用空間は清潔に保たれ、採光や風通しが程よく、心地よく過ごせる作りとなっている。ウッドデッキ仕様の中庭を囲むように2ユニットがあり、利用者は自由に出入りができ、季節の草花も楽しめるよう工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールやソファにてゆっくり過ごしたり、気のあった利用者と話ができる空間づくりに努めており、本人の希望にそった場所で過ごされている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具を持参されたり、本人の使いやすいように配置している。利用者の中には、家族の希望にて、危険がないように家具を押し入れになおされている方もいる。	使い慣れた寝具や時計、テレビ、カセットが持ち込まれ、その人らしく生活できるように支援している。居室での就寝を嫌う利用者には、リビング対応をするなど、その人の思いも大切に支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は、バリアフリーになっており、廊下は歩行しやすい幅で施設内を1周ぐるっと回れるようになっており、各自で歩行訓練ができる環境である。トイレも各邸に3つあり、本人の利用するトイレは大体決まっている。			